

## 第1回富良野市総合計画・総合戦略有識者会議 議事録

- 開催日時 令和2年6月30日(火) 午後2時00分～午後4時30分  
■開催場所 富良野文化会館 大会議室  
■出席者 <委員>北会長、荒木委員、菊地委員、加茂委員、松村委員  
山崎委員、倉西委員、柿崎委員、藤田委員、吉本委員  
平間委員、小玉委員、遠藤委員、吉中委員、林委員  
飯沼委員、黒木委員、山崎委員、岩井委員  
(計19名)  
※欠席委員 石川委員  
(計1名)  
<事務局>稲葉総務部長、山下市民生活部長、柿本保健福祉部長  
川上経済部長、小野建設水道部長、亀淵教育部長  
藤野財政課長、関澤企画振興課長、入交企画振興係長  
<受託事業者>フラノデザイン(株) 中村、大曾根、村上

### 1. 開会(午後2時00分)

- ・事務局より、有識者会議の目的、総合計画策定業務をフラノデザイン株式会社へ委託、市議会より総合計画基本構想特別委員会が傍聴の旨を説明

### 2. 市長挨拶

- ・有識者会議委員への団体からの推薦、一般公募による協力に感謝するとともに、富良野市の将来に向けた市民目線でのご意見をお願い致します。
- ・昨年度、市民ワークショップ・市民意識調査・転出入者アンケート調査、地域懇談会などを実施し、多種多様な市民ニーズを把握に努めてきた。
- ・総合計画策定業務をフラノデザイン株式会社へ委託しているが、昨年度の市民ワークショップからご協力をいただいております、会議の進行にあたってはファシリテーターを担っていただく。
- ・富良野市の今後の10年を考えたときに、次世代に持続可能な繁栄を繋いでいくかが総合計画での大きな課題となってくる。
- ・これからの大事な10年を創っていく、10年後に繋げていくためには、市民一人ひとりが、総合計画に謳われる取組に参画いただき、多種多様な形の中で富良野市の発展、将来を担っていただく総合計画になればと考えている。

※以降は、設置条例第5条に基づき、北会長が進行。

### 3. 議題

#### 【北会長】

- ・議事に移りますが、今年度、総合計画策定業務をフラノデザイン株式会社へ委託しております。総合計画のコーディネーターの役割がありますが、会議でのファシリテーターの役割も担っていただき、中立・公平な中で会議を進め、委員皆様の意見を引き出していきたいと思っておりますので、この後の進行はフラノデザイン株式会社をお願いしたいと思います。

#### 【フラノデザイン 中村】

- ・今回のフラノデザインの役割については、“各会議体・ワークショップの話し合いの場の支援”“各会議体間、市民の意見を繋ぐ支援”“情報の見える化・デザインの支援”を担い、委員皆様の意見を総合計画の策定に繋げていきたい。

#### 【フラノデザイン 大曾根】

- ・本日の構成についてですが、最初に委員皆様に自己紹介をしていただきます。
- ・次に、人口分析の状況・総合計画策定のプロセスの現在地・総合計画における内容検討「骨格と前提」を事務局から説明し、委員皆様との共有を図りたいと思っております。
- ・最後に意見交換の流れを進めさせていただきます。

#### (O) 委員メンバーの紹介

各委員より自己紹介、今の気持ちなど

### (1) 人口分析の状況について

資料1に基づき、北海道立総合研究機構北方建築総合研究所 松村副所長より説明

### (2) 総合計画の骨格と前提について

資料2に基づき、フラノデザイン 大曾根より説明

### (3) 意見交換

※全体の意見交換の前に、3~4人のグループで意見交換を実施

#### 【荒木委員】

- 2015年と2020年の富良野市の人口は、社人研予測で5.8%減少し、住民基本台帳では7.8%の減少となっている。
- 昨年1月現在の減少率は7%であり、1年5ヶ月で0.8%悪化している。
- 社人研予測と住民基本台帳を比較すると、年少人口で6.8%、生産年齢人口で1.4%のマイナスとなっている。0~4歳に限ってみると14%のマイナスである。
- 社人研予測より良くなっている自治体を見ると、明確なKPIを持ち、施策を実施している。未来は変えられる、どう変えるのかが大事である。
- 落ち込み率から予測すると2050年の富良野市の人口は約9,000人となる。
- 人口減少をこのままにしておいていいのか、減ってもどの程度に抑えるか、を考えていく必要がある。
- 総合計画の基本構想は平成23年に地方自治法の一部が改正され策定義務はなくなった。総合戦略は平成26年にまち・ひと・しごと創生法が制定された。各種法律は後でできた法律が優先され、総合戦略が総合計画より上位とならなければならない。
- 総合戦略は産官学金労言のすべての団体が策定に加わり、民間とコラボして進めるものである。
- 総合戦略は、総合計画の基本構想より大きなものであり、大前提となるものである。
- 人口減少を放置しないためにも総合戦略をまずに作るべきである。
- 具体的な人口目標を定めるためにも、これまでの総合戦略の検証が必要であり、明確な課題があるにもかかわらず解決策を講じていないことが問題である。
- データを活用しながら、早急に総合戦略を検討していただきたい。

#### 【フラノデザイン 大曾根】

- 今、いくつかの論点があったと思います。
- 1つ目は人口の見立ての部分、2つ目に課題にどう向き合うか、3つ目にプロセスそのものをどう進めていくか、他にも色々あったと思います。

#### 【荒木委員】

- 有識者会議は、総合計画の基本構想と総合戦略の策定となっているが、具体的な作業としてどこまで取り組むのか、策定に向けたタイムスケジュールはどうなっているのか。

#### 【北会長】

- 総合計画の中に総合戦略が含まれ、その中で人口問題やそれに関わるまちづくりを考えていくこととなる。また、タイムスケジュールまで話すことにはならないが考え方としてご理解いただきたい。

#### 【荒木委員】

- 法律的に総合戦略が優位であり、総合戦略の一部が総合計画ではないか。総合計画は行政の行動計画、指針である。
- データ分析の中でリーサスを活用しながら、総合戦略の人口ビジョンや取り組みを作り、それ以外の行政のすべての範囲における総合計画を作るべきと考える。

#### 【フラノデザイン 大曾根】

- 現在、総合計画策定のプロジェクトチームでは、総合計画と総合戦略を包含的に扱いながら、10年後、30年後を見据えながら取り組んでいる。
- 最終的に総合計画や総合戦略の形になっていく段階では、いただいたご意見は大事なところである。

- ・ビジョン型のアプローチだけではなく、事業の評価や現状の課題などからのアプローチの両方が必要と考えている。

【松村委員】

- ・総合計画の前提・大切な視点を見て、正直感激した。すごくいいと思った。
- ・課題解決も大切だが、フューチャーデザイン、将来を見据えたバックキャストの進め方は大事である。
- ・フューチャーデザインは行政だけではできない。デザインすることが地元業者でできていることが素晴らしい。

【飯沼委員】

- ・総合計画の前提・大切な視点を見て、非常に素晴らしいし、あったかいと感じた。
- ・富良野が変われるチャンスであり、行政だけでなく市民も一緒に入った総合計画が作れることはいいこと。
- ・死んだときに富良野に住んでいて良かったと思えるまちでありたいと思っている。
- ・総合計画と総合戦略の実践する中で、有識者会議として検証して、修正していけるシステムにしてほしい。

【荒木委員】

- ・有識者会議は、総合計画の基本構想と総合戦略の策定としかになっていないので、総合計画の基本計画の策定、検証ができる場にしていただきたい。

【黒木委員】

- ・今回の有識者会議は、意見を聞く場なのか。
- ・会議が時間ありきで、生煮えで終わるのは勿体ないので、回数も含め時間に余裕を持った形で進めてほしい。

【フラノデザイン 大曾根】

- ・今回の有識者会議は、いろんな視点の意見を聞く場と考えています。

【岩井委員】

- ・先程説明のあった人口推計の純移動率では、子育て世代の女性流出も影響大となっているが、子育て世代の親として感じていることは、他市町村の方が子育てがしやすいとしたり、子育て施設が充実してしたり、富良野市よりも魅力的なまちを見つけて移動しているのではないかと感じている。
- ・子どもをどこで育てるかという視点で住むまちを決める世代がこれから増えていくと思うので、次の総合戦略では子育てするなら富良野市がいいという施策を盛り込んでほしい。
- ・例えば、独立型の屋内遊技場であったり、他市町村では大学生までの医療費が無償であったり、保育料の上限や補助であったり、子育てへの手厚さを女性はシビアに見ていると思うので、子育て環境は段々良くなっていると思うが今よりも充実させてほしい。

【吉中委員】

- ・子育て世代の母親に話を聞くと、もっと働きたいが働く環境がないという意見があった。その辺がクリアされないと他市町村に出て行ってしまわないか。
- ・富良野市も色々な取組を行っているが、取組が足りないのではなく、目線が違ったり、施策を知らない人もいるのでPRの仕方が下手なのではないか。富良野は子育てしやすいという前評判を払拭する努力が必要ではないか。
- ・子育て世代にわかりやすく説明する必要があるのと、若い人の意見を吸い上げる場が少ないと感じる。従来型だと行政がやってくれるだったが、自分たちのやりたいことを行政に叶えてもらう、住みやすいまちにするのは自分たちの意見を取り上げてもらうんだという機運がないと、市民目線を取り上げていくことができない。

【荒木委員】

- ・結婚届を提出した際に、法制度や子育て支援などをまとめた冊子をつくるよう行政に商工会議所として提案をしている。各事業所によって結婚後の制度などが違うので、冊子の内容にプラスして各事業所の制度の説明を加えて周知するとよいのでは

- ないか。
- ・富良野市では中学生までの医療費が完全には無償となっていない。全道の90%以上のまちが中学生までの医療費が無償となっているので、是非、富良野市でも無償にしてほしい。
  - ・富良野市は子育てに冷たいという意見を払拭するには、市外に出ていかないための子育て対策が必要である。

【松村委員】

- ・子育てに対する金銭的支援も大事だが、富良野市には充実した医療がある。子育てに対する金銭的支援で人を集めるのではなく、お金で評価できない価値をつくっていく必要があるのではないか。
- ・町として、どういう人に来てほしいかを考えるときが来たのではないか。誰でもいいから人口が増えればいいではない。
- ・高齢者が幸せになり、健康寿命が延び、社会保障費がおちて、みたいな大きなシナリオを目標にすると違う展開がでてくるのではないか。視点として、高齢者が住み続けたいまちは、若者にも響くのではないか。

【フラノデザイン 大曾根】

- ・豊かさとは何か、魅力とは何か、の問いをいただいたと感じた。
- ・施策としてどういった軸、創造的な工夫など、これからの動きに大切なことと感じた。

【荒木委員】

- ・自立可能な経済状況は、事業主がたくさん雇用しようという経済状況が必要である。
- ・たくさんの若者が富良野で活躍する場、ちょっとひと押しする状況を次の総合戦略の中に取り込んでいただきたい。

【フラノデザイン 大曾根】

- ・若者のチャレンジ、子育てのしやすさ、子育ての魅力、高齢者の幸せなど、実は繋がっている循環みたいなもの描けるのではないかと感じた。

【黒木委員】

- ・農村部では、農業後継者がいなくなったり、学校がなくなったりすると、人が住まなくなるのではないか。
- ・富良野市では新規就農者に対して様々なバックアップをしているが、新規就農者を増やそうと考えたときにはハードルが高い。小さい面積での就農、一人での就農、農協に出荷するのが前提ではないなど多様性があるのではないか。
- ・失敗させないために様々なバックアップをしていると思うが、色々なチャレンジができる新規就農者を増やしてほしい。失敗しても再チャレンジできるような後押しを行政してほしい。
- ・農村部の人口が少なくなってくると、子供もいない、子供の友達もいないとなると住んでいて不安になってくるので、市街地以外の農村部に対する考慮をお願いしたい。

【吉中委員】

- ・現在の新規就農者の受入は、地区毎に作る作物が決められており自由度がない状況なので、富良野に魅力を感じて来てくれた人を受け入れる工夫・取組が必要ではないか。
- ・富良野に住んでもらう、来てもらうためには、独自の方法が必要ではないか。他の人がやっていないユニークさが必要ではないか。
- ・人口が減るとまちをコンパクトにしなければならないというが、コンパクトにすると人が住まないところがいっぱいできてくる。人が住まないということは、維持できないということである。維持するためにはどうしていくか、目線を変えて考える必要がある。

【荒木委員】

- ・地域に5年いれば根付くと言われているので、富良野でやりたいと思う人に、期間を決めて後押しする状況が必要ではないか。

【フラノデザイン 大曾根】

- ・自由度や後押しなどキーワードがあったが、人口や地域のこれからを考える上で可能性があると感じた。
- ・お手元にアンケート用紙を入れさせてもらいましたので、この場で発言できなかったことがあれば記入し、提出していただきたいと思います。
- ・たくさんの貴重なご意見をいただきましたが、すべて解決するというよりは大切な素材として今後につなげていきたい。

【北会長】

- ・熱心なご議論ありがとうございました。

4. その他

- ・特になし

5. 今後の予定

- ・今後の有識者会議日程について事務局より説明

【吉中委員】

- ・次回の有識者会議の前に、今日の会議を踏まえたワークショップ的な意見交換を委員で行ってはどうか。

【北会長】

- ・この有識者会議が、意見交換をする場と捉えていただきたい。

【フラノデザイン 大曾根】

- ・委員によるワークショップは、場とタイミングの設計や現実的にタイトな日程で進めているので難しいと思っています。ご意見としていただいて検討する。

6. 閉会（午後4時30分）

【北会長】

- ・人口に対して多くの心配があるかと思いますが、受け入れざるを得ない課題として危機的に捉えるのではなく、今後の時代の動きに対応していくためにはどうしていくか考えていかななくてはならない。
- ・委員皆様には今後、厳しいスケジュールの中でご対応いただくこととなりますが、皆様の1つ1つの意見が総合計画に盛り込まれる可能性を持っていますので、市民の多様な意見を反映させ、市民も責任を持って協働の形の中で推進していける総合計画となるよう、今後の議論をお願いします。